若い皆さん、君たちはどうする？

―迫る、平和と自由と民主主義崩壊の危機―

◆日本は、五四年前まで、天皇主権・軍国主義が支配し、若者たちは、赤紙（召集令状）一枚で、妻子・父母・恋人から引き離され、戦争に引き出され、戦野に倒れ、海底に沈み、約三百十万の人が死にました。

それだけでなく、日本は、愚かな侵略戦争の結果、罪もないアジアの人二千万人以上も殺す「加害者」となりました。

◆沖縄県の人を犠牲にし、日本本土は焼け野原、浜松も見渡す限りの廃墟。

広島・長崎に原子爆弾が落とされ、やっと敗戦、無条件降伏！

その時になって、国民は「騙されていた」と、気づきました。

◆戦後、日本は、新しく生まれ変わりました。

①天皇主権から国民主権へ（国家の主人は私たち国民）

②軍国主義から平和主義へ（戦争をしない国に）

③全体主義から自由主義へ（自由と人権を尊重する国へ）

＊あの時、私たち国民は、自由にものが言え、戦争をしない「国民の世の中」になったことを、提灯（ちょうちん）行列までして喜んだのです。

◆あれから五四年、今また「民が代」から「君が代」へ、「戦争をしない国」から「戦争に協力する国（日米安保新ガイドライン関連法）」に、「自由・人権の国」から「盗聴する国」へと、アッという間に変わり始めました。

◆大学生・高校生・中学生の若い世代の皆さん、あなた方が、これから迎えようとしつつある日本の将来は、再び、昔の天皇主権・軍国主義・自由のない国に逆戻りするのではないか、と心配でなりません。

しかし、選挙権のある人は、正しく投票すれば、平和・人権・自由・主権を守ることができます。

◆君たち、どうしますか？

「――――――――――――――――――――――――――」

―　一九九九年九月一二日（日）第三九一回・憲法を守る平和行進　―

―　浜松市憲法を守る会　―

―　事務局　浜松市紺屋町三〇一～十五―